

令和5年度 波佐見町総合教育会議 会議録

日時 令和5年11月29日(水)

10:00~11:45

場所 波佐見町役場 委員会室

出席者：前川町長、福田総務課長
森田教育長、山下委員、馬場委員
富木委員、松尾委員
朝長次長、渡邊指導主事

1. 開会

福田総務課長

それでは定刻となりましたので、只今から波佐見町総合教育会議を始めたいと思います。まず、最初に町長がご挨拶申し上げます。

前川町長

本町教育行政に振興に対しましては、町民の代表としまして、大所高所からの教育委員会の運営に御協力いただきますことに改めて感謝を申し上げます。

この総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき全国全ての県や市町村に設置をされているものであり、首長と教育長、教育委員が一堂に会して、本町の教育方針と現状、課題を認識し、共通理解のもとに、教育行政を進めるために設置されております。ふだんから教育長と私は、意見交換を行っておりますが、教育委員の皆様は、なかなかお会いすることも少ないようですので、本日改めまして、昨今の教育を取り巻く環境について意見交換を行い、今後の本町の教育の振興について、あるいは方向性について確認できればと考えています。

それから私の公約の中に、子育て世代への支援というものを掲げており、当然、子供の教育ということも大切なものと思っています。それから加えて、別ではありますが新庁舎が10月12日に完成をいたしまして、13日に引渡しを受け、先般土日には、一般町民の方を対象にして内覧会を開催し、約800の方がお見えになりました。来年1月4日には新庁舎での業務開始というふうになっておりますので、ぜひ皆様お時間がありましたら、この後にでも内覧をしていただいてもよろしいかなと思っています。

どうぞ本日の会議が本町の教育振興に実りある会議になりますようお願いを申し上げます。御挨拶とさせていただきます。どうぞ本日はよろしく申し上げます。

福田総務課長

ありがとうございました。以後は着座にて進行させていただきます。早速ですが、御手元に配付しています次第に従いまして協議事項に入らせていただきます。

3. 協議事項

(1) 今後の教育課題等について

福田総務課長

最初にこの総合教育会議について、新任の教育委員さんもいらっしゃいますので、内容について御説明をいたします。御手元の資料とは別にしてありますが、参考として、波佐見町総合教育会議設置要領を配付しております。先ほど、町長も触れましたが、総合教育会議は、平成27年4月に施行されました改正地方教育行政の組織及び運営に関する法律、第1条第4項第1項の規定に基づき、全ての県と市町村に設置をされるものでございます。協議事項について、要綱、設置要綱第2条に掲げておりますが、第1号に掲げています大綱の策定及び協議は、昨年度のこの総合教育会議で策定をし、町の基本計画に反映しておりますので、本日の議題にはございませんので、御承知おきいただければと思います。

それでは協議事項について、教育委員会から提案並びに説明がありますので、よろしく願いをいたします。

朝長教育次長

はい。それでは私のほうから資料に基づいて説明させていただきます。まず2ページを御覧ください。2ページは小中学校の4月10日現在の児童生徒数です。昨年度より25名減っています。少子化の影響が出ているかなと思っております。

3ページを御覧いただきたいと思っております。過去昭和55年からの数字です。これは4月10日現在のそれぞれの学校の数字です。昭和50～60年をピークにずっと下がっていますが、平成22年が1,368名、今現在が1,163名ということで、大体200名、年間15名ずつ減っている計算になるかと思っております。あと今後令和10年の数字ですが更に40名弱減るということが予想されています。今後子育て世代への施策を充実させていくことで、この少子化の流れを少しでも上向きにしていくことを本町の目標として、取り組んでまいりたいと思っております。この児童生徒数につきましては、このまましばらくは推移していくのではないかと考えています。

続きまして4ページですが、今年度の各地区の児童生徒数と未就学児の数です。三股は小学校が5年生1人のみで中学生はいない。あと平野も小学校が今年1年生に3人入学し4名、中学校が2名ということです。地域で少子化が進行していることが分かると思います。こういったことで、町民運動会のリレー選手がいなくてというところが、如実に表れてきているところだと思います。地域によって子供の数に差がでるということで、この解消ができるのかどうかということは非常に難しい問題ではありますが、我々もこの数字というのは認識していなければいけないこととは思っております。

続きまして5ページですが、今後の教育課題ということで6項目ほど挙げています。まず学校施設ですが、計画的に補修箇所の手入れを進めていまして、来年度あたりは中学校の屋根の防水工事や中央小学校の体育館の雨漏り工事など計画的に行っていきたいと思っております。あとバリアフリー対策と

ということで、来年度中学校にエレベーターを設置したいということで今年度設計を行っています。再来年度には東小と中央小への準備も進めたいと思います。

あと通学路の整備ですが、一番大きなところが中央小周辺の横枕線だと思っています。今横枕線については大体のところは仕上がっていると思いますが、来年度は公民館から伸びてくる横枕2号線をしていただけるのかなと思っています。横枕線ですが、一筆地主の方に同意をまだいただいている土地があって、随時用地交渉を進めていかれるものと思っています。南小区域で八並病院付近の南部線も随時道路改良工事も進められています。こちらは今しばらくお待ちいただければと思っています。

次に2番の学力向上ですが、今年度が昨年よりも悪かったということで、議会の方からも指摘されているところですが、随時、学校と連携を取りながら、子供一人一人の学力をつけていくことは教育委員会の最大のミッションだと思っています。なお南小学校は、今年度と来年度、人権教育推進ということで県の指定を受けられ、現在取り組みをされているところです。

3番のICTの教育推進については、タブレットは令和2年度に導入して本格的に3年度から活用を行っております。それと電子黒板についても、3年度4年度に導入を終えまして、授業に活用していただいている状況です。本日も中央小学校の方で、長崎県美術館をインターネットでつないで遠隔授業を行っています。県の学芸員の方が来られて、学芸員からの説明と同時に、子供たちは自分のタブレットと電子黒板を使いながら、美術館と中継を結んで学習を行っています。今日午前中が中央小、昼からが東小学校で遠隔授業を行うようにしています。

それと、もう一つ教育関係のDX化ということで話を進めていかなければいけないと思っています。先日、国のアドバイザーで東北芸工大の小出先生とWEB会議を行いまして、私たちが思っていた以上の話を聞けたということで、今後波佐見町の教育アドバイザーとしてお願いをしたいと思っています。今後日程等を詰めて、先生にご就任をお願いしようとしています。先生の話によれば、GIGAスクール構想は、学校の先生方の働き方改革として、学校の先生方を楽にするために始めたところ、教育現場では学力向上の方に重きをおいた動きとなって、本来の趣旨とちょっと違っていると思われていたようでした。今後そういった学校現場のいろいろな問題、ICTの問題を聞きながら、次の施策を打っていきたいというお話が聞けました。

4番目、コミュニティースクールの充実ですが、各学校にコミュニティースクールを組織しています。学校ボランティアの方とか、地域の自治会長さんあたりと協議しながら、学校教育の参考にされています。特に、東小の東っ子支え合い隊は地元の方がどんどん授業の中に入って来られ、子供たちをサポートされています。あと南小学校のわくわくワークデイですが、非常に良い取組をされていると思っています。

5番のふるさとキャリア教育ですが、こちらについても地域の人との関

わりの中で、ふるさと波佐見を見つめ直す教育を進めていかなければいけないと思っています。中学校においては、やきもの文化体験事業を一昨年からは波佐見焼振興会に委託して行っていますが、全国各地で行っているサクセッサ講座の手法を取り入れて、生地の製作現場を子供たちに見学・体験させることを行っています。あと、波佐見焼が今どうしてこんなに人気があるのかという講座と、実際のやきもの製造会社の工場見学と、商社の見学、それと販売所の見学を行っています。最後に、自分たちで絵付けしたやきものを畑ノ原の登り窯で焼くという一連のやきもの文化体験を行っています。こういったふるさとキャリア教育を進めています。

先ほど、南小のわくわくワークデイことを申しましたが、これも地域の方々、商工会の方々のご協力を得て、今年は10の職場体験ブースができていました。それぞれのブースで子供たちが体験して、キャリア教育につながる取り組みを毎年していただいています。これとは別に、今年度から5月のゴールデンウィークの平日を絆の日として休みを設けています。これについても、波佐見町で一番大きなイベントである波佐見陶器まつりに、もっと子供たちを関わらせたいという思いを持って始めています。来年度以降もっと積極的に子供たちを関わらせるような方策を考えていきたいと思っています。

その他ですが、不登校については、日々スクールカウンセラーとかスクールソーシャルワーカー、そして学校と連携して子供たちに寄り添った、取組を行っているところです。まずは家から一歩出そうという取組をやっているところです。令和4年の数字で、小学校が3名、中学校が15名の計18名を県に報告しています。令和3年が、小学校が6名、中学校が16名、計の22名で報告をしていて、4人ほど少なくなっています。

部活動の地域移行ですが、これは今からの喫緊の課題で、現場等々と打合せを行いながら、波佐見らしい地域移行ができるように、今関係者の皆さんと話し合いを進めているところです。土日の指導者の確保というのは何とかできるかなと思っていますが、平日の指導者の確保と併せ、謝礼をどうしていくか、財源をどうしていくか、そういった難しい問題を抱えています。

英語教育の充実ということですが、令和元年から県立大学の山崎先生にご協力をいただきまして、小中学校の英語教育の充実を進めています。あと、中学校においては、中学時代に英検3級を取得するという目標を掲げ、取組をしています。もちろんその上位についても取得してもらうよう推進をしています。

耐性の教育で（ ）で書いていますが、中学生の車での送りが8時前後はものすごく、文化会館は大変混雑をしています。小学校までは集団登校をしていて、中学校になった途端車での送迎が始まっています。こういった現状を踏まえ耐性の教育の推進を行いたいと思います。

SNSでのネットトラブルやいじめというところですが、SNS上の上には見えないところですので、対応をどうしていくかだと思っています。次に書いていますが、その対応のためにもICT支援員さんの増員とかが必要

になってくるのではないかと考えています。

人的体制の充実ということで、学校現場からの意見要望をお伺いして、今年度は、特別支援員の3名増、先ほど言いましたICT支援員の1名増、スクールサポートスタッフ（SSS）の2名増、今SSSは2名いらっしゃいますので、各校1名体制になるよう要望しています。あと学校サポーターの更なる登録の増という形で、学校現場を支えていければと思っています。

続きまして、子育て世代へのPRできる施策です。まず給食の無償化につきまして、議会でも申しますが、年明けた1月から第1子も無償化を始めようと思っています。来年度以降も第1子からの完全無償化という形で、要望させていただきたいと思っています。その他にも入学援助金ということで、小・中学校入学時にどうしてもお金が掛かるということで、そこを幾らかでもサポートできる援助金の創設を考えています。あと通学補助金ということですが、高校に通われている保護者からあればありがたいというお話を聞いています。こちらも今後要望させていただければと思っています。

最後にPTA支援ということですが、最近のPTAは、コロナもあってなかなか活動が出来ずに、この4年間の間に引継ぎがうまくできていないところもあるのではないかと考えていますが、なかなかイベント離れっていうか、イベント自体をしなくなっているのではないかと考えています。特に夏のラジオ体操は、夏休みの間中ではなく期間を限定した形で行われているようです。あとプールの運営についても、期間限定でされているという状況があるようです。もっとPTAと地域をつないでいかなければいけないのではないかと、教育委員会の場でも話ができていますので、PTAの支援をどうしていくか、今後教育委員会としても協議をしていきたいと思っています。

私の方から一通り、説明をさせていただきました。あとは皆さんからもいろいろ意見をお願いしたいと思っています。

福田総務課長

はい、ありがとうございます。教育長から補足があればお願いします。

森田教育長

簡単に、まず1番の学校施設バリアフリーの部分については、議会等でも言っていますが、エレベーター、車椅子対応トイレ、そしてスロープという三つの施策を令和7年度末を目途に設置をしましょうという文科省からの指示があります。現状、4校の様子等々を確認して、先ほど次長が言ったように、関係する児童生徒がどこにいるかということで振興実施計画でも挙げさせていただきました。年次計画の中で行っていき、令和9年度には4校全て対応できる予定をしています。

通学路につきましては、横枕1号線がほぼ12月で完成しますが、未着工区画が残っているために、そこで全ての子供、車、自転車も離合するという大変危険な状態が逆に生まれています。未着工区画の用地買収について、早急にやらないと事故がいつ起きても不思議ではないという状況で

す。返ってよろしくないと思いますので、建設課とも詰めていきたいなど思っています。同時に、2号線も砂利までは終わっていますが、早期な対応をお願いしたいと思っています。

学力向上につきましては、現時的にどうしても要支援、要配慮の子供たちが増加しています。特に低学年1年2年3年生の頃に、配慮を要する子供たちのために、落ちついた状態の中でなかなか学習が出来ない状況が、かなり目立ってきています。学校としては、その指導支援をどうしていくのかが一番の課題として捉えているところです。

5番のふるさとキャリア教育につきましては、先ほど次長が説明したように様々な取組によって、今県内外から視察や発表の依頼があっており、実績が上がっているのではないかと考えています。

不登校・いじめについては、子供たちにアンケートをした時、何となくとか、不安だということが主な理由ではありました。その他にも本町の場合は、ゲームやSNSに依存をして昼夜逆転をしていたり、保護者の養育能力とか、家庭環境によって、登校不適應を示している子供がいます。今子供たちを取り巻く環境の一番大きな変化が、教育機会確保法という法律で、学校に行かなくてよいという選択肢が市民権を得たということが一番大きな理由ではないかなと、私たちは判断をしています。当然その部分の学びの確保とか、早期発見等々が求められているところがありますので、私たちも早期発見早期対応を、どういう形で行なえるか具体的に施策として打ち出していかなければいけないと思っています。先ほど次長から令和4年2月段階で県に報告した数字ですが、人数を聞かれてびっくりされたかもしれませんが、これは県内で最も少ない数になります。県が目標とする数値は、小学校は全児童の0.66%、中学校は4.0から4.4%です。でも実際のところ、小学校は1.5%、中学校は6.0%にもなっています。この数字からいうと本町の場合は、県が目標としている数値以下ということになっていますが、先ほど言った理由で微増している現状があります。またなかなか改善傾向が見られません。本町の不登校の一つ大きな特色として、兄弟姉妹に不登校がいるとその兄妹に波及する確率が高くなるということと、クラスの中に1名いるとそのクラス内にも波及してくるということが、今の中学校でも明らかになっています。居ないクラスはずっとゼロですが、1人でも出てくると2人3人という傾向があります。そういった点で、文科省も県も不登校対策・いじめ対策については、誰1人取り残さない学びの保障とか、心のSOSを早期発見とかいうような形で、人的体制の支援を早期に充実しましょうということの趣旨があります。働き方改革も含めまして、先ほど次長から、学力向上支援員を3名増、ICT支援につきましては特に生徒指導やいじめ発見につながるようICT支援員を1名増、それと教頭の働き方改革を進めていくためにスクールサポートスタッフを各学校1名の2名増、叶わなければ1名でも良いので増やしていただいて、中央小学校・中学校に1名ずつ、南小学校と東小学校で1名の計3名体制ができれば大変ありがたいと思っています。学校サポーターは今10名弱の方々が、南小学校では放課後の学習支援、中央小学校では様々な掲示物

の作成や授業支援等々を行っていらっしゃいますし、東小学校は東っ子支え隊がたくさん登録いただいています。中学校の場合は、心の相談員的な役割で、子供たちの相談相手という形で、教員経験者を放課後、相談室や図書室で待機をさせながら、会話等を行っていただいています。

保護者世帯の補助につきましては、給食費無償化、通学費補助、入学準備金という形で上げさせていただいています。通学費補助につきましては、今近隣では東彼杵町が今年度から始められています。町外に通う高校生以上に2分の1から3分の1補助されていて、県内自治体では多分東彼杵町だけではないかと思っています。入学準備金については、長崎市、大村市、島原市あたりが、様々な手だてとしては打ち出されています。ランドセルの支給であったり、制服補助であったり、そういう形で、今挙げたような自治体が行われています。私の考えとしては、入学準備金は前谷口教育委員さんから、入学する時にお金が掛かったという話があったので、振興実施計画に小学校入学に際して1人5万円、中学校入学時に1人5万円、130人×5万円×2という計算で挙げていますが、今のところは保留ということで回答をいただいています。通学費補助につきましても、これは現場保護者からも、特に私立高校の場合はスクールバスが月額1万円だそうですが、公立高校、例えば佐世保工業とかになると、月3万円掛かっているということでした。波佐見中学校の公立私立の入学者は、昨年度から私立が逆転し、私立55%、公立45%の入学者になっています。もしかしたら交通費の負担が大きいとかも一因としてあるのでないかと思っています。通学補助につきましても、他自治体に先立って行われたら、移住定住促進につながっていくのではないかと思っています。

講堂の充実も特に考えていきたいと思っています。暑い寒い時期には利用しにくい状況があるので、空調をぜひ進めていきたいと思っています。年中いろんな方々に活用してもらえ一つの交流の場、観光の場としてアピールをしていきたいと思っています。

あと、教育委員会が移転をする総合文化会館の機能維持、充実も大きな柱だと思っています。どういう体制をとっていくか、また図書館の充実ということもありますので、事務所を図書室の分室的な扱いをして、もう少し現図書館をきれいに整理整頓していくことと、正面玄関入って左右のロビーに学習コーナーの設置ということを考えているところです。以上です。

福田総務課長

はい、ありがとうございます。ここから先は、それぞれ自由な意見交換とさせていただきますので、各委員さん、あるいは、町長からもいろんなご発言をして、情報交換をしたいと思います。それでは、よろしく願います。

前川町長

項目が多いので、2項目ずつ区切っていきましようか。

福田総務課長

それでは、まず今後の教育課題についてということできましよう。ま

ず学校施設と学力向上に絞って、まず話をさせていただければと思います。よろしく願いをいたします。

前川町長

中央小の前の横枕線の道路ですが、今年度用地買収が済んだものについては完了させるということで、事業費をつけて完成をさせる予定にしています。ただ、どうしても、一筆土地の所有者が町外にいらっしゃって、都会的な感覚で単価の折り合いがどうしても付いていません。公共用地の買収の原則は現況地目で、今現況地目が農地であれば農地の単価でしか買えません。宅地に転用したら坪2万円とか6万とかしますが、現況田なので田の単価でしか買えません。そうしない、周りは田で買収してそこだけ宅地で買収とかできません。均衡がとれなくなりますので、どうしてもその折り合いがつかないということのようです。建設課もだいぶ折衝しているようです。こちに住まれていないので、と言っても最終的には、私か教育長が行って、現状説明しながら、何とか説得といいますか交渉を進めていかなければいけないとは思っています。

森田教育長

交番前から来ている中央小の子供たちは、今までは中学校前を渡たり右側通行していましたが、今は中学校前を真っすぐそのまま行き小学生は左側通行しています。中学生は逆に左側を自転車とともに左側を通行しています。たまに自動車も通りますので、狭いところに多くの子供たちが離合しあっている状態で、危険な状態が続いているところがあるので大きな事故が起きる前にやらないといけないとは思っています。

前川町長

バリアフリー関係で、事業費規模はどのくらいになりますか。

朝長教育次長

エレベーターは大体7,000万ぐらいです。

前川町長

補助は？

朝長教育次長

今後何年間かは半分補助で、それ以降は3分の1になると思います。

前川町長

意外と文科省の補助は3分の1と言いながら、3分の1来ないこともあります。文科省は予算がなく、最終的には予算の総枠の中で削られることがあります。

森田教育長

文科省はバリアフリーについて7年度を目途としていますが、県内自治体はそこまではとても出来ないというところが現実のようです。本町はまず中学校をして、その次に東小と中央小に対象となる子供が入学してくるということですので、東と中央を終えてから、最後に南という計画をしています。令和9年度末に南小学校で終了という形になっています。

別件ですが中学校のプールについては、一応令和8年度に全面改修を予定していました。1億から1億5,000万工事費を予定していますが、利用

頻度からして本当にそこまで掛ける必要があるだろうかということで、中学校には提案をしています。恐らくそう多くない日数でしか使っていないので、果たしてそれだけの投資を行う必要があるかと考えたときに、中央小学校のプールを利用するという形で出来ないか、中学校の校長には体育担当と協議をしてもらいたいと話をしています。私たちは中学校のプールはもう不要かなということで、そちらの方向でいくことができると考えています。

前川町長 確かにそうですね。水泳は必須科目にはなっているのでしょうか。

森田教育長 必須科目ではありますが、日数的には少ないし、中学生になってなかなか泳がないし、夏休みのプールの開放もしていませんので、中学校の利用は確かに少ないです。プール施設があるところはプールの学習をしない、無いところはプールに代わるもので結構ですとなっているので、無かったら無かったでそれは違反にはなりません。中央小学校も歩いて直ぐのところにあるわけで、今使っている時間数ぐらいは、中央小学校にお願いすれば、十分にそれは対応出来ますので、1億5,000万使って全面改修する必要はないのではないかと、校長には協議をするように指示をしています。

前川町長 以前東小のプール改修をする時に、ちょうど財政担当をしまして、絶対プールは必要かと尋ねたら、絶対必要と教育委員会から言われたので、そんなに何千万も掛けるより、バスで別の学校にいけないのかという話もしました。いざ作って見たら、その当時の校長が夏休みは開放しないとかありました。8000万ぐらい掛かったのではないかと記憶しています。

福田総務課長 そのときに担当でございました。南小学校が既存のプールにFRPを被せて、うまくできたということでその工法で東も行いました。当時そういう話があって、いろいろと学校と掛け合いましたが、いろいろあって、結果的に夏休みは開放しないということで決められました。

森田教育長 当時はいろいろありましたが、今は開放するようにしております。ただ回数がだいぶ減ってきています。これはいろんな理由があって、PTAの監視の協力がなかなか昔と違って厳しいということがあるので、どんどん開放日数が減ってきているのが現状です。今プールの管理の方は、シルバーをお願いをしていますが、監視については今でもPTAをお願いをしているところがあります。そういう様々な理由の中で、少し考えて、人材確保をどう図っていくかということで、もっとプールの開放日数を増やしていくということも大事なかなと思っています。

山下委員 私の中学校にはプールはなくて、町民プールがあったのでそこに通って

授業していました。そういうこともあるので必ず学校にプールがないといけ
ないというのはどうなのかなとは思いますが。

森田教育長 実際そうですが、プールはかなり単価が高いし、利用頻度が少ないの
で、近隣の学校のプールを使ったり、町とか市営のプールを利用すること
がどんどん増えてきています。本町の場合は4校ともプールがありますの
で、必ずカリキュラムの中にプールを入れて学習するということがありま
すが、今の中学校の利用状況からみれば、中央小で十分対応できるかなと
いう思いを持っています。

前川町長 教育長がそういう考えを持っていらして、ホッとしました。

松尾委員 もう思い切ってなくしてしまっって、その場所を何か他に活用するとい
うことも考えられることですよ。

森田教育長 中学校に、そういう協議をしてもらいたいと指示をしています。水道代
とか維持費とか考えると、かなりの額を使いますので、そちらの方がきつ
と良いだろうと思います。

前川町長 皆さんからも何か御意見をいただければ、

富木委員 それでは良いですか。教育の現場で費用対効果という文言が出ていま
すが、会社の経営とかはお金を掛ければそれだけの効果をあげなさいと言
われますが、教育の現場での費用対効果というのは、例えば機材を導入して
すぐ結果が得られるものか。そこら辺りの具体的な話が何かあれば、いた
だきたいなと思います。

森田教育長 費用対効果、学校現場からすると目標です。私たち教員の申し訳ない言
い訳になりますが、やはりどうしても教育は時間が掛かるとか、思ったと
おりにならないとか、それも間違いのない事実ではあると思います。ただ教
員の責務として、あるいはプライドとして、60点しか点数を取れない子供
を、平気で次の学年、次の学校に送っていつている事実があるのではない
か、というところをもう少し真剣に考えようよという呼びかけ的なもの
を行っています。それじゃ駄目だろうと、そういうことをしていたら会社と
かは全部潰れていくよと。やっぱり責任を持って、次の学年、学校に上げ
ていくためにはある程度のところで、お金をかけた部分、特に波佐見町は
いろんなところでお金を教育にかけていただいていますから、その部分を
子供たちにきちっと還元していくっていう費用対効果の意識を、学校現場
は今まで持たな過ぎたのではないかと考えています。民間だったら当然倒
産とか首になるところが、私たちは公務員で保証されているので、首には
ならないが、そういった考えでは多分今からは駄目じゃないかと、先生方
へのハッパ掛けの意味もあるし、あるいは自覚も含めて費用対効果という

言葉を使っています。今後学校においてはとても重要な言葉だと思って、かなり校長たちにも伝え、お願いをして、そういった意識を持とうということ先生方に伝えてもらいたいということを言っています。

ありがたいぐらいです。郡内3町、特に波佐見町は県内から比べたら、ありがた過ぎるぐらいにお金を掛けていただいています。その分、大変申し訳ありませんが、学力向上の学力調査の結果になかなか反映してないということは事実だと思っていますから、そういう点でもっと意識を高めて欲しい、お金は有限ですよ、無限ではないんですよという意識を高めてもらいたいと思っています。

福田総務課長

他に無ければ、ICTの教育、コミュニティースクールの充実と、ふるさと教育まで行きましょか。何かご意見等あればお願いします。

前川町長

良く九州教具の船橋社長から、波佐見町はICT教育の後進町ですよとされていますが、どうでしょうか。川棚がタブレットを使った授業とか、外国との交流事業に使っているとか、あるいは体育の授業で活用しているとか、よく新聞に載りますが、そこら辺り波佐見町は遅れているのでしょうか。

森田教育長

特に九州教具さんは、川棚町と東彼杵町とタイアップをして、ICT教育はもう20年前から、県内でも先立って行われています。その先進的な取り組みは間違いなく先進だとは思っていますが、ひどく波佐見町が遅れているとかは一切ありません。昨日の南小学校で授業がありましたが、マット運動でこのタブレットを持ちだして、子供たちは動画を見ながら、自分の振り返りとか有効活用は行っています。確かに川棚町と東彼杵町は進んでいるところはあると思いますが、そこまでひどく後進ということではないと思っています。特に、本町の場合はICT活用推進委員を立ち上げて、その中で各学校の専門家の教員を集めて、協議しながら進めています。確かに数年前までは、かなり川棚町と東彼杵町には遅れを取っていたとは思いますが、今はだいぶ近づいてきたかなというところです。

前川町長

安心しました。後、一気にGIGAスクール構想でいろいろな機器が入って、惑われた先生方も多かったと思いますが、そういった先生方も定年になられて、世代交代されてはいると思いますが、どうですか、先生方はそういった機器にある程度慣れられた環境でしょうか。

渡邊指導主事

我々世代のベテランの先生にとっては、ちょっとハードルが高いっていう人ももちろんいらっしゃいます。今学校現場ではICTがずっと普及していますので、それに対応できるよう、校内での研修も進んできています。今教育長が言われたように、体育の授業でも、その他の調べ学習でもタブレットが活用されています。実際今日は県美術館と、オンラインを使っている授業で、子供たちがタブレットを使いながら学んでいました。子供

たちの様子を見ると、タブレットを開いたら、もうサクサクと自分で進めていっていました。ですから、先生が次ぎこれ開いて、あれ開いてと言うのではなく、もう開いたら自分で学習の準備は出来ているので、子供たちの中ではタブレットは当たり前になってきているところがあります。ゆくゆくはタブレットが文房具の一つとして、タブレット一つ抱えて持つてくる時代になってくるとは思いますが、今はその前段階として、子供たちへの普及、知識、量というのは、他の町と比べても、遜色はないというふうに考えています。

前川町長 今後、紙ベースではなく、デジタル教科書が本格的に導入されてくることとなりますか？

森田教育長 来年度小学校が新教科書になりますが、今のところはまだ児童用のデジタル教科書は全教科の配付はあっていません。今現在は、外国語と算数だけ試験的に配付されています。児童生徒用のデジタル教科書が配付されるのは、たぶん令和7から令和10年、次の次の改訂ぐらいではないか思っています。まだしばらくは並行して使用することになると思います。ただし、今の現状は、先生方の教科書がデジタル化になっていますので、そのデジタル教科書と電子黒板を使って一斉指導をして、子供たちは自分のタブレットで学んでいく。このスタイルが、先生方がしやすいと言われていきます。最初から子供たちがタブレットを使うのではなく、電子黒板で一斉に指示をしたり説明をしたりして、子供たちがタブレットで自分学習をする。このスタイルの方が良いので、今のままでも大丈夫だという声は上がってきています。デジタル教科書の指導者用については、来年度の予算についても充当はしています。中学校で言えば主要5教科、プラス例えば体育とか、技術家庭とかどうしても必要な教科については、指導者用のデジタル教科書について予算化をして配布しています。

松尾委員 町長がおっしゃった、ベテランの先生方のICTというのは、多分授業に関しては恐らく問題ないようですが、何か問題が起こったときには、助けを呼ばれているようです。若い先生たちが結構いろんなトラブルに対応されているようで、大きいトラブルにはなっていないようです。

前川町長 意外と年取ってくると、パソコンも固まって、自分も固まって、どこを触れば良いのか分からないようになります。

松尾委員 助けに行く先生がちゃんといらっしゃるみたいなので、大丈夫みたいです。

前川町長 なるほど。返って子供の方がサクサクとできるので、子供から習うことがあるかも知れませんね。あるテレビで見えていましたが、3歳から4歳の子供と60代の人にタブレットを与えて、1時間経った時、3・4歳の子供はも

うゲームをしていましたが、60代の方は扱いきれずにただ黙って持っていただけでした。そういう現状なんでしょうね。

森田教育長

小出さんの話でも、GIGAスクールのもともとの構想は、先生方の働き方改革の改善だったのが、今学力のほうにシフトしているということで、ちょっと自分たちの予想というか期待とは違ったところに向いているという話でした。確かにそうではないかと思っています。学力向上とつなげてしまうと、やはり、読み書きそろばんを自分の力で行っていくことが大切だと、改めてみんなが気づいたところがあって、便利過ぎて学力がついていないという課題があるようなので、どちらかというとな事務处理的なもの、先生方の働き方改革に有効なツールとしてということがメインなのかなと思っています。今松尾委員さんがおっしゃったように、困った時にすぐ誰かの助けが必要となってきますが、そこに今回予算要求をしたICT支援員さんの専門家をあと1名つけていただくと、2校に1人となるのでかなり長い時間関わっていただくことができると考えています。と同時に、SNS上でのいじめとか、あるいは報告物がたくさん来ています。今国や県からの報告物はメールで簡単に来るので、昔と比べむしろ報告物が増えています。だから現場の先生、特に教頭がその集約等があるので仕事が全然減っていません。むしろ増えているので、そこが教頭にはなりたくない一番の原因だと思っています。徒労に終わるような仕事をずっとなしなればいけないというのが教頭の仕事のイメージになっているので、だから皆教頭になりたくないと思っているようです。この仕事を誰にさせるのかというところで、機械にさせるというところが逆にメリットなのかと思う時に、やっぱり専門家の配置とか、分担とかいうことが必要なのかなというところで、先ほど言ったICT支援員さんとか、SSSスクールサポートスタッフの増員というのは、学校現場ではとても必要なことだと思っています。

山下委員

タブレットの持ち帰りが進んでいると思いますが、家庭におけるオンライン環境整備事業が、令和4年は96%ぐらいとお聞きしていましたが、新しく小学1年生が入学されて、その後また変化があったのではないかなと思っています。状況はどうでしょうか。

朝長教育次長

昨年度は数件ありましたが、今年度はまだ申請はありません。ただ100%ではないみたいなので、そこら辺りそういった家庭でどうされているのか、学校の方には調べてもらうようお願いしています。携帯につないでされているのかどうかと、ちょっとそこら辺りがよく分からない状況ではあります。

森田教育長

求めがないので、何とかなっちはいるだろうとは思っています。どうしても時は持ち帰り用のモバイルルーターを持たせるという準備もしているので、困るということは基本的に無いようにはしています。割合的には

95%以上の環境整備が出来ていますし、ルーターの持ち出しも可能ですし、何かしらの手だてが多分取られていると思っています。一斉の持ち帰り活動は、今のところ支障がないという状況です。

山下委員

モバイルルーターの貸し出しとかはありますか。

渡邊指導主事

貸し出しも行っていますが、今年度については新規の申請はありません。

森田教育長

多分何とかなっていると思っています。困りますとか、ありませんとかいう話は一切上がってきていないので、何かしらの手だてをとられているみたいです。

福田総務課長

はい、ありがとうございます。それではその他も含めて、全体的な意見交換をさせていただきたいと思います。その他もかなり内容が不登校から、部活動地域移行、英語教育、耐性等々、過去の教育課題からずっと挙がっているところですので、フリートークでも全然構いません。また、教育委員さんからの要望もお聞きしたいと思います。よろしく願います。

前川町長

まず、学校給食費の無償化ですが、今年度と申しますか年明け1月2月分が残っていますが、これについては国の物価高騰対策交付金が出されていて、既に川棚彼杵が今年度に限りこの物価高騰対策で給食費の無償化を行っています。本町ではしていませんでしたが、物価高騰対策で1月2月の無償化をしようと思っています。新年度からは、本格的に無償化に向けての検討を指示していますので、まだ、議会が通っていないので何とも言えませんが、無償化を行う方向で検討しています。後は学校と直接関係ありませんが、保育料の第2子が国の基準では半額徴収となっていますが、本町は4分の1徴収しています。しかし、川棚彼杵がもう無償化している関係で、本町も第2子は無償化しようかということで、来年度からも無償化の方向で検討しています。

森田教育長

給食費の補助については、現段階でも県内自治体で波佐見町が一番補助はしています。ただ、町長おっしゃったように、東彼杵町と川棚町は物価高騰の部分で今年度に限り無償化していますが、今年度3月をもって止めるということです。今県内自治体では佐世保市が、中学3年生のみ無償化を一般財源化するということで、市長公約の中で挙げられています。県内でもここだけですね。

本町は今までも県内トップの補助でしたが、今回小中学生完全無償化になればありがたい限りです。

前川町長

大体6,000万ぐらいですかね。この前、知事を挟んで、各市町首長の連

携会議があって、そこの中であったのが、大村市長選挙で園田市長の対抗馬が無償化うたっていて、園田市長は年間2億ぐらいかかるので無償化しないと、それよりも公共的な施設を整備して、幅広く使えるような施策に使いますという公約を掲げて戦われたそうです。その中で、他のどこの市町も無償化について考えていないという意見でしたが、最後ちょっと言いにくかったですが、私は来年から無償化を予定しますと言って、一人だけ孤立したような感じでした。ただ施設を作れば作るほど、その維持費が毎年何千万も掛かるわけですね。その辺は首長の考え方の違いとは思いますが。それと一つ言われたのは、本来国が異次元の子育て支援と言って給食費を無償化しますってこと言っていたので、それを、どっかの市町がやり出すと、独自でやれるじゃないか、だったら国は手を引くというスタンスにもなり兼ねないから、なかなかそこに踏み込みたくないっていう考えの首長さんもいらっしゃいました。確かにそうだなと、国はすると言っていて、市町村が無償化できるのであれば、もう国はしないよとなり兼ねないかなとも思いました。改めて考えさせられる部分でもありましたが、ただ本町は来年からやるつもりでいます。

松尾委員 無償化にするとデメリットも多いみたいで、県内のある市町では結構補助が手厚くて、かなり町民の生活保護率が上がって、相当治安も悪くなったという例もあるようなので、無償化をしなかった園田さんのお考えも分かるような気がします。

前川町長 無償化がですか。

松尾委員 無償化ではなくて、自治体からの補助が手厚いということです。そこにやっぱり依存して、生活保護も増える。給食費も無料、医療費も無料となると、意外と町が荒れるということが、他の大きい市町でも起こっているようです。

福田総務課長 そういう人たちが来るということですよ。

渡邊指導主事 私就学前の保護者と面談をする担当で、よく保護者と話をしますが、波佐見以外のところから、波佐見に住むようになりました、家を建てましたという方も結構いらっしゃいます。どうして波佐見に来られたのですかと話をした時、波佐見が住みやすいという話を聞きます。実際住んでみてやっぱり住みやすいですっていう方も、その中の多くいらっしゃいます。ある方は、これ前の話なんですけど、車で通っていた時に、横断歩道を渡ろうとしていた子供がいたので、止まって子供が渡った後で、子供がこちらを振り返って、深々と会釈をした子供がいたということで、自分はこんな町に住もうと思って、ここ波佐見に家を建てましたという方もいらっしゃいました。だからそういう家庭教育であったり、学校教育っていうものが、やはり地域にとってはとても大事なと感じたことがありました。例えば

挨拶一つもそうですが、そういう給食の無償化であったり、横断歩道であったり、そういったところは、波佐見を選んだ一つの要因というのは感じています。ですから、給食の無償化もどんどん進めていただきたいと思います。

馬場委員

そうですね、私もそう思います。大村とか大きい市には、財政的にかなり負担が大きいと思います。しかし、波佐見町は今給食費の徴収では100%、滞納者はいません。ということは、無償化になると全員が喜ぶのではないのでしょうか。徴収率が100%でないところは滞納者が喜ぶと思いますが、波佐見町は全員が払われているので、無償化となると良い方向に行くのではないかと思います。だから、そこら辺りの感覚、いろいろな考えがあると思いますが、波佐見町内では一つの目玉として良いのではないかと思います。

前川町長

よく子供の貧困とか、ニュースになりますが、自分の周りではあまり居ないので、ちょっと良く分かりませんが、他所では子供食堂とかありますが、三度三度のご飯も厳しいとか、実態としてそういったところを教育委員会で掘めたりしていますか。そういった貧困世帯とか、要保護とか、準要保護とかの制度で、給食費あたりはカバー出来ていると思いますが、なかなか本人たちもそうでよと言ってないでしょうから。

渡邊指導主事

そうですね、食事もままならない貧困世帯というところの情報は今のところはないです。準要保護のアピールも町の方でどんどんしてもらっていますので、その辺りはだいぶ広がってきていると思っています。朝ご飯を食べずに学校に来ている子供はいますが、それが貧困によるというところではなく、朝起きれなかったとか、お母さんの都合で朝の準備ができなかったとか、そういったところですか。貧困によるっていうところは、波佐見町としては余り聞いていません。

富木委員

一つよろしいですか。私25年前にPTAの役員をしていた頃に、岩永校長の前の校長先生から話を聞いた1個のおにぎりという話があります。新任の私だけに話されたことだと思います。毎朝養護教諭の先生がおにぎりを持ってこられていたそうで、その後に1人の児童が保健室に入っていて、しばらくして教室に戻っていったそうです。それが1、2日じゃなくて、毎朝そういったことをしていたということで、その子はたぶん朝御飯を食べてきていなかったのかなと、あるいは、そういった環境にないご家庭の子供だったのかなということでした。しっかり朝御飯を食べていきなさいと我が家では言って育ててきましたが、そういったご家庭があるということが、同じ小学校の子供たちの中にいるということで大変ショックを受けた思い出があります。25年経って、経済格差といいますか、家庭の環境もそれぞれ変わってきている中で、先ほど話題に出たそういう貧困の話がありましたので、そこら辺りにつきましても、しっかりこの教育行政

の中で、サポートができればなという思いでいます。

森田教育長

就学援助、公的扶助については、波佐見町ではかなり広報ができていますので、毎月定例の教育委員会でも2、3件の認定を行っているところです。特に、今子育てであったり、福祉の方からの情報共有の中で、家庭環境的に厳しいなというところについては、情報を共有し合っていますので、そこについては学校にも周知を行い、先生方や養護による観察等々も行っています。ヤングケアラー対応も含めて、そういう情報共有は今役場関係他課との連携も取れていますし、場合によってはケース会議などを行い、あるいは児相等々の連携性もありますので、その辺りの連携は取れているのではないかなと思っています。

前川町長

ヤングケアラーに当たる子供はいるんですか。

森田教育長

調査をしています。但し、ヤングケアラーの捉え方はとても難しく、ヤングケアラーですって訴えた子供たちは、妹弟の世話が大変です、私だけ風呂の担当とかいうレベルのヤングケアラーがほとんどで、重大化する部分は今のところありませんでした。そういう情報発信をできるような環境整備を作っているところはとても大事なかなと思っています。窓口であったり、先生たちであったり、日記であったり、そういう子供たちのSOSが発信できるような環境整備は持っておいて、いつでも困った時には相談してねという関係性があれば良いのかなと思っています。

前川町長

微妙ですね。手伝いなのか、私なんか子供の時は風呂焚きが仕事でしたからね。

福田総務課長

他にございませんか。はい、どうぞ。

松尾委員

町長さんがいらっしゃるので、子育て世代にPRできる政策の中で、医師会からも上がってきていると思いますが、予防接種の補助を高校生まで拡大してもらえないかという要望が上がっていると思います。今インフルエンザ等予防接種を4,200円で行っていますが、大人と高校生はもう一般的なので満額、小学生が個人負担1,600円、高齢者の個人負担が1,700円、それ以外は町負担なんです。高校生は通学であちこち遠くまで、バス、JRで通学しているのでインフルエンザを打ちたいという保護者さんが多くいらっしゃいます。自分と高校生と小学生と自分のご主人となってくると一家族15,000円とか2万円近く掛かってしまいますので、高校生まで補助を拡大してもらえるとすごくありがたい。中学生も1回目は1,600円ですが、2回目は満額になります。やっぱり小中学生は2回打ちたいという保護者さんが多いので、特に中学校3年生は受験の時に罹りたくないの、それを見越して1回目と2回目をいつ打つかということを保護者の方から相談されることがあります。2回目となると結局満額の4,200円払わないとい

けないということが少し負担になっているという声が、今年は特に多いような気がします。予算が幾らになるとかいうことは全く分かりませんが、ちょっと考えていただければとありがたいなと思います。

前川町長

インフルエンザ関係の予防接種の補助については、高校生あたりは確かに対象範囲に含めても良いのかなと思いますので、担当課とちょっと協議をさせていただいて、どういうふうにするか、本当にニーズが高ければ対象にしていきたいと思います。一度するとずっと恒久的なものにもなってくるので、試行的にやるっていうスタンスで始めてみるかですね、そこら辺りは前向きに検討しますと言っておきましょう。

福田総務課長

他にご要望ご意見とかありませんか。

山下委員

はい。今読書に対する関心とか、ちょっと低い状況なのかなあという印象を受けています。読む子は読んでいますが、携帯とかタブレットを見ている時間が多くて、本と向き合う時間が少ないのではないかとということで、ちょっと考えたことですが、読書に対する関心を深めるためとか、本を身近に感じてもらうために、読書フェスティバルみたいなものを企画されてみてはどうかと思っています。町民表彰を受けられたお話の部屋はてなさんとか、地区の読み聞かせボランティアさんもいらっしゃるので、ご協力いただきながら進めてみてはどうかと思っています。例えば、学校の図書室を拝見した時に、楽しく飾られて今月の本の紹介をしてありました。こういう紹介のほかに、本の読み聞かせコーナー、紙芝居コーナー、本のリサイクルコーナーとかを設けられたり、葉づくり、ブックカバー作りなどのワークショップを開いたりとか、子供から大人まで楽しめる企画をされてみてはどうでしょうか。そういった企画に町から幾らか補助をされて、何か楽しいイベントを企画されてはと思っていますが、いかがでしょうか。

森田教育長

読書に関する関心の低さというか、二極化というか、どうでしょうか。3小学校の読書数は評価をしています。ただやっぱり読む子と読まない子、もう一つ学校の目標とすれば、非読率を減らし、少なくとも二けたは読ませたいとか、量から質へということもあるだろうと思っています。今山下委員さんがおっしゃった様々な取組、イベント的なことは各学校では行われていると思っていますが、中学生になるとそういったイベントを設けても図書室になかなか行かなくなっているようです。図書室は談話室的な色合いになっているようですが、それはそれでも良いのかなともっています。中学生になると、部活や受験勉強など、なかなか本を読む時間の確保出来ないということが現状なのかなと思っています。それを今度は町の図書館レベルで、5団体ボランティアの方々にご協力をいただきながらとなると、ボランティアの方々も工夫をされて活動が行われているので、今以上の余力があられるのか正直ちょっと厳しいところもあるのではない

かと思っています。現在文化会館の図書館のスタッフは4人いて、常時2人体制となっています。確かに図書館関係については議員さんからも幾つか要望はでていますが、今以上イベントとかフェスティバル的なものに手を伸ばしてということは、現段階ではかなり厳しいところがあるのかなと思っていますが、ちょっと協議させていただきたいと思います。

前川町長

私、文化祭の時にも話しましたが、私の中学校の時の体育の先生が、身体の栄養は食事、心の栄養は読書と言われました。体育の先生がですよ。やっぱり読書は基本だと思っています、私朝礼の時いつも本を読んでもらうと言っています。そうしないと読解力とか文章力がなかなかつかない、実際役場の職員の中でも、本当に初歩的なことですが、句読点のつけた方がおかしいと思うような職員もいます。句読点のつけ方で全然文章の意味が変わってくる場合もあります。本当に読書は大事だと思っています、本を読んだ分だけ、文章力に差が出てきます。町民の要望としても図書館の利用拡大が結構上がってきています。今回教育委員会が役場に移りますので、教育委員会の事務所のスペースの有効活用を検討してもらいたいと思っています。蔵書を増やすだけではなく、活用ということを考えていかなければと思っています。

森田教育長

今度の新聞発表でも、中高大学生の読書数は本当に厳しい状況であって、紙媒体ではもう殆ど手にしていない状況で、電子媒体でもどうなのかという、そこまで増えていないようです。本当にじっくり本を読む、活字に親しむということはもう厳しい状況で、ほんの空いた時間を見つけスマホで読むとか、短い時間で読んでいるような状況です。じっくり時間掛けて本を読む大事さというところもあるとは思いますが、小さい頃から、隙間時間でスマホ読書に慣れていくと、学力に結びついていないのではないかと思っています。残念ながらICTデジタル先進地区、先進県の学力調査はかなり厳しい状況です。やっぱりそれは、瞬間的に情報を得てそれをこなしているだけなので、自分の力で考える、自分の力で言葉を書く、表現する、文章にすることが全く身につけていないので、デジタル先進地区の学力調査はかなり厳しいです。だから、そこをバランスよくどう鍛えていくかが大きな課題ではないかと思っています。

松尾委員

山下委員がおっしゃった読書フェスティバルも含めてですが、教育課題の中で今考えなければならないと思うのは、PTA支援というか、1,200人ぐらいいる子供たちの親にいかに関わってもらおうとか、いかに自分の子供たちのことなんだよという意識を持ってもらっていただくことではないかと思っています。そうすると学力も向上するだろうし、自分の子供だけではなく隣の子供、近所の子供との関わりが増えてくるだろうし、耐性の教育ということで自動車送迎が問題になっていますが、別に子供たちに耐性がないのではなく、保護者が送ってしまうからなので、保護者の教育をいかにするかということが大事になってくると思います。

学力がつくためにはこうした方が良くはないかということを含めて、PTAの方たちへの投げかけを含め、何かしたほうが良いかなと思います。今漢検は500円ずつ援助していただいています。そうしてもらおうと子供たちは受けてみよう、受けたいとなるので、すごくいい取り組みだと思っています。受けたら受けたで、漢検どうやった？とコミュニケーション増えるので、次はどういう勉強をしたりとか、どんな取り組みの勉強方法があるのかなど、学びにもつながっていくと思うので、受験料の補助ということは、すごく子供たちにとってはありがたい施策だと思います。

馬場委員

私も今の意見非常に大事だなと思っています。昔というと可笑しいけど、昔は先生たちと子供たちがもっと一体になって、もちろんそこに保護者も入ってやっていました。今のPTA活動はコロナもありましたが、先生方のフォローの活動はほとんどあっていません。どちらかと言えば、学校側に押しつける、してくださいと、自分たちの意見ばかりが目につくようです。PTAの役員も1年ごとに変わっているし、そういった中で一番今大事になっているのは、3者が一体となって協力し合う体制が出来ていないことだと思います。私もそういう中で、PTAの皆さんと役員の意見交換会をしましょうとずっと言っています。それをするによって、出来るだけ昔の良いところを伝えて、もっと自分たちは学校に対してこういったことをしなければいけないのではないだろうかというところを親同士で話し合う、また自分が子育てをしてみて、そういったアドバイスのなものも先輩から後輩へと受け継ぐという、そういった機会が本当に少ないのではないかと思います。本当につくづく思っていますので、そういった機会を是非作って欲しいし、もっと先生方と密接な関係を作ってもらいたいと思っています。一方、学校の先生方にどうのこうのという不信感があっとうまくいっていないということも、お互いの話合いが出来ていないということが一番の原因なので、問題は話し合いの場を持つことだと思います。

今年からというか、今回からそういうふうにしていきたいと思っています。そこで今回各団体との話合いの場を作っていきたいということで、来月社会教育委員と教育委員の皆さんの話合いを計画しています。学校教育はの中で話をしていけば良いですが、社会教育となるとものすごく幅が広いわけですが、いろいろある幅広い中でも、今回のコロナで改革するべきところはあるだろうし、そういった率直な意見をくみ交わしていこうと思っています。やっぱりお互いの団体のコミュニケーションが非常に少なくなってきたということも現状だし、そこら辺りを私たちは考えていかなければならないのではないかと思います。

それともう一つ、新庁舎が出来て教育委員会も移ります。私たちも移転した後は、どうなっていくのか不安はあります。議会の中でも毎回言われているようですが、やってみないと分からない部分があると思うので、いい方向に行くよう進めていくことが、今後の方針だと思います。不協和音が出ないよう、お互いのコミュニケーションをもっと取っていくことが必

要だなと思っています。

松尾さんが言われているように、もう少しPTA活動も幅広くしてもらわないと、何か孤立しているみたいな感じがしないわけでもないのですが、それをちょっと感じましたので、私も付け加えさせてもらいました。以上です。

森田教育長

これは、もうずっと前からの課題ではありますが、どんどん厳しくなってきたことが、今の現状だと思っています。今年の夏も、ある学校では夏休みのプール開放については、行きたい子供の親だけで運営すれば良いのではないですかという意見が出てきています。お互いさまとか、してもらったので返さないといけないみたいな、そういう部分が薄れてきているのが現状です。PTAはもちろん任意加入で、波佐見町の場合はまだほぼ加入されていますが、PTAの加入率は全国でたぶん50%から60%ぐらい、長崎県でも75%から80%弱ぐらいしかありません。そういう状況で、自分の子どもだけで良いという親がいますが、困った時は助けてくださいとか、何かあったらすぐ言ってくるのが現状です。

ここにいらっしゃる方々はPTA活動を中心的に先進的にされてこられた方ばかりだと思いますが、学校の永遠の命題として、来てほしい親が来ない。この子の親に来て欲しいと思っても、絶対来られない。そこが永遠の課題になっています。話を聞いて欲しいけど、その保護者の方が一切会合には出て来られない。PTA活動にも参加されない。学校から発出される文書にも目を通されてない。これが現状で、こういった保護者の割合が増えてきているということが、今の学校の大きな課題です。また、保護者の方々の多様化された価値観も広がってきているので、縦のつながりではなく、横の、ネットで良いねをもらえる関係さえあれば良いじゃないかと思っている親もいらっしゃるのではないかと思っています。狭い範囲の中でつながりがあるということで安心されるし、逆にそこが自信になっているので、別にあえて苦情的なもの、嫌なものに、自分から行かないという考えで、そういうこともあるだろうと思っています。

また、いろんな県内の自治体からスクールバスの話題が少しずつも出てきています。波佐見町は耐性とか、あるいは登校する時のいろんな学び、私たちが以前子供のころ体験してきた様々な学びがありますが、それに教育的な意義があるのではないかと思っています。今の保護者は、とにかく安全に早く、そこに熱中症対策とか様々な理由をつけて、車で送っていくことを正当化し、何でスクールバスの運行が出来ないのか、早くして欲しいと声が出てくるようになりました。だから今、中学生だけではなく、小学生の車通学も増えてきました。それは、兄姉を送るついでに、小学生も連れていくというパターンが増えてきています。例えば、東彼杵町ではもう学校統廃合が始まっていますから、スクールバスの利用も行われています。千綿地区の中学校はありませんので、千綿地区の中学生はスクールバスで、彼杵中に来ています。あるいは音琴とか大楠の子供たちも、スクールバスを使って彼杵小に来ています。そうすると、東彼杵町全体は、スク

ールバスを利用している児童生徒の数が多いため、東彼杵町あたりがスクールバスに対する抵抗感がどんどん下がっていった時、東彼杵町では早めに導入するかも知れません。そうなった時、私たちが今求めている耐性であったり、徒歩登校の教育的な学びの部分の部分をいつ味わうのか、いつ学ばせるのかという、また別の課題が出てくることになります。だから、便利さとか快適さとか豊かさだけを追求すると、本来子供のうちに身につけなくてはならないような、様々な力を身につけないままに大人になっていく、それは優しさとか、思いやりとか、助け合いとかということも含めてです。そういう時代、大きな変換期に今あるのではないかと感じてはいます。

福田総務課長

はい、ありがとうございます。だいぶ時間が経過しましたが、まだご意見があられる方はお願いします。

山下委員

町内放送で、町内のイベントとか、教育委員会からも支援員さんの募集などお知らせされていますが、町内放送の時間帯に在宅していない方も、たくさんいらっしゃるのではないかと考えています。そこで、波佐見町の公式ラインがありますので、それを追加される方が増えればと考えています。波佐見町の公式ラインをもっと活用していただいて、イベントなり、そういった支援員の募集なり、公開していただければ、より多くの方に周知いただけるのではないかと考えていますが、いかがでしょうか。

福田総務課長

はい。ラインの加入は今5,000人です。人口14,000人で世帯数は6,000世帯です。私のところは両方入っていますので、そういったところもあると思うので、一定の効果があっているのかなと思います。現在、発信についてはシステム担当で発信していますが、これが各担当で発信できるようになるとだいぶ違ってくると思うので、ここら辺りを検討してみたいと思っています。ありがとうございます。

馬場委員

県の会議に行きますと、教育委員さんの事とか、社会教育委員さんの事を地元の皆さんが知っていますかとよく言われます。前にも一瀬町長の時にも言ったことがあります。何かあったらそういう役職の人に相談をしてほしいなということを知周知するため広報紙等で、教育委員や社会教育委員の紹介するとかしてもらえればと思っています。そういったことも大事だなと思っています。身近にこういった方々がいらっしゃるの、町の行事だったら社会教育委員に、教育のことであれば教育委員にと、そういった周知をお願いしたいと思っています。県の教育委員会に直接話がいくことがありますが、まずは学校の校長にいて、更に教育委員会にいて、そして県に行くという段階を踏まないとおかしいわけですが、中にはそういった極端な人もおられるので、そういった周知をしていただきたいなと思っています。以上です。

前川町長

教育委員会の事務局で対応よろしくをお願いします。

福田総務課長

それでは大変有意義な時間だったなと思っていますが、そろそろ時間になりましたので、これで協議を閉めさせていただきたいと思います。

先ほども冒頭申したとおり町長と教育長は、常日頃から意見交換をしていますので、教育委員の皆様におかれては、各種要望等については、教育長につないでいただいて、教育長から町長と協議をしてもらうことになると思います。

本日、総合教育会議で意見交換した内容は、町長と教育委員会の共通認識として、今後の教育課題の解消に向けて推進していくこととなりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

最後に閉会に当たり、教育長がご挨拶申し上げます。

森田教育長

本日はお疲れさまでした。学校あるいは先生方を取り巻く環境が随分変わってきたと感じています。デジタル化、コロナ、そして働き方改革という、この三つの大きな流れとは別に、例えば部活動の地域移行、学校のブラックイメージ、教員や教頭へのなり手不足、不登校やいじめの急増、支援を要する児童生徒の急増、ネット絡みの問題行動の増加、経済格差、更には、苦慮する保護者の対応、PTAや地域活動の衰退、本当に様々な課題が、今学校や先生や地域に渦巻いています。こういった中において、本当にこれから学校や教員の役割、意義というのはどうなっていくのかと心配をしています。疲弊している学校や先生方、そして地域をいかに私たち教育委員会がサポートをしていくのか、支援をしていくのかということが問われていると改めて感じているところです。途中でも言いましたが、逆にこんな時代だからこそ、不易と流行の部分、不易の部分が何なのかというところを改めて問い直していきながら、バランスよく指導をしていったり、関わっていったり、助言をしていくという、私たちの役割ということがあるだろうということを思っています。学校教育、社会教育、生涯学習においても、現場の思いや願いを大事にしながら、適切な指導助言ができる教育委員会でありたいなということを、今後も大事にしていきたいと思っています。これから様々なお願ひ、改革・要望を、町長部局の方にもお願ひすること多々あると思いますが、その要望を確かな成果として表すためにも、何とぞ、ご支援ご理解を賜りますことをお願いいたしますとともに、私自身も、関係機関と一層連携を強化しながら成果を上げていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

福田総務課長

以上をもちまして、波佐見町総合教育会議を終了いたします。御協力ありがとうございました。